

学校教育目標	教育課題	総合評価					
心と体を ひらいて学ぶ 美麻の子	協働の学びの質を高める	校長先生が別紙で評価します					
	重点1 学びづくり 子どもたちにとって魅力的な学習問題を据え、協働の学びを通して教科の特性を活かした見方や考え方が更新される授業づくりを目指します。	成果と課題 ・タブレットの積極的な活用により、自分の意見を書きこみやすくなったり、画面上で意見共有が短時間でできたりすることで学習活動に効果が見られる。その一方で、タブレットの活用は個の追究になりがちなので、その先の追究を深めるために授業の組み立てを工夫していく必要がある。 ・ペア学習や小グループでの学習など、場面に合わせて学習形態を変えながら学習を進めることによって、全体の場で発表できなかった子が発表できるようになるなど成果がみられた。また、思考ツールを学習活動に定期的に取り入れることで、児童生徒の側から進んで活用する姿がみられるようになるなど、思考の手段として浸透した様子が伺えた。 ・対話に参加できるようになってきたり、マインドマップなど継続することで書けるようになってきたりする子がいる一方で、なかなか向かえない子もいる。	A	B	C	D	改善策・向上策 ・ICTの効果的な活用について実践を重ね、研究していく。 ・対話のよさやその意味を、実感が伴うように児童生徒と共有していく。 ・「学習問題」を児童生徒の願いや疑問から立てたり、「今日のゴール」を教師の言葉だけではなく、児童生徒と共ににつくったりして授業をスタートしていくようにする。 ・対話によってよりよく理解できた、マインドマップの記入によって考えが深まったと実感できるような単元や授業デザインの研究を進める。
	重点2 体づくり 元気アップ運動を継続し、持続可能な体力向上と健康生活の習慣化を目指します。	・運動する、三食の食事をとる、早寝早起きは、多くの子が意識して取り組んでいる。 ・給食の残食が減ってきた。苦手な食材がある子や食べ物に過敏な子のために、味付けや提供の仕方に対応してきたことが功を奏している。 ・児童生徒が考える元気アップでは、授業などで行った種目が多く挙げられた。「楽しい」だけではなく、体づくりとして意識を持ち始めてきているが、その反面、意識せずに参加しているだけの子もいる。そのような児童生徒にどうすれば健康づくりや体づくりへの関心を高め、積極的な行動に結びつけられるか模索していく。					成長期であるステップ期・ジャンプ期に、生活習慣の乱れや運動不足が健康な体づくりに悪影響があることを伝える必要がある。生活習慣を見直し、体を動かすことで心身ともに成長できることを、児童生徒だけでなく、家庭も一緒に理解してもらえるように働きかける。
重点3 集団づくり 少人数の多様なグループを体験する中で、よりよいリーダー、フォロワーとしての自分の在り方について考えあひながら、深く信頼し合う人間関係に支えられた集団の構築を目指します。	・ミニミニグループのリーダーを7年生が担当したことで、リーダーやフォロワーとしての成長が見られた。 ・ホップ期では、4年生がリーダーを務めた。初めは不慣れだったが、活動を続けていく中で、だんだんとホップ期全体の様子を見みて活動するようになり、リーダーとして少しずつ自信を高めていく姿に成長を感じた。 ・全校音楽や梨の木祭など全体活動へ向けて準備していく過程が児童生徒にとって、素敵な体験になっているが、十分な準備時間がとれず、ギリギリ間に合わせているのが現状。 ・人間関係を築くことが苦手な子、フォロワーとしてリーダーを支えることができない子、活動に参加しない子が一定数いる。教師が個に応じた対応しているが、根本的な解決につながる手立てが必要。					・学習活動、歌声づくり、自治会活動などで、多くの児童生徒にリーダーやフォロワーの体験をさせることで、人間関係を醸成していくように工夫する。また、さらに小さな集団での活動も取り入れて、その中で自分の取り組めることをやれるような工夫をしていく。 ・人間関係をよりよく築ける支援の一つとして、学級活動などの時間にソーシャルスキルトレーニングを取り入れるなどの工夫をしていく。 ・児童生徒が活動を準備するための時間を生み出す方策を考えていきたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	一学期を振り返って	評価	改善策・向上策	二学期を振り返って	評価	改善策・向上策
教	学びづくり	主体的に学ぶ授業	「3つの学び方」が大切にされ、児童生徒が主体的に学び、達成感もてる授業が行われている。	学年によって差がある。分からないと言うことはできるが、聴く、追究するが今一歩のところがある。	B	①小グループの聴きあう環境をつくる。だれかが分からないと言ったら、グループで聴きあう。教師がカバーするのではなく、子ども同士がカバーする。1時間の授業の中でその環境をつくる。 ②事実を提示して、どっちがよいかなど、どっちが…、比べてどうか…という形の学習問題から作ってみる。ジャンプ問題を設定してみる。 ③追究場面でもっとクロムブック・思考ツールを活用してみる。活用のために職員研修を進める。 ④振り返りの時間を確保する。振り返りの観点を洗い出し、子どもたちと共有していく。	職員や児童生徒の振り返りから、期が進むにつれて、3つの学び方が成熟してきている様子が伺える。聴くことができると追究も深まっていることが感じられる。	B	①引き続き、聴き合う場を設定して、聴き合い方を経験していく。
		考える力が高まる授業	個の学びが尊重され、対話を通して新たな見方・考え方に出合う授業が行われている。学習問題の解決のために ICT 機器や思考ツールなどを有効的に使って考えることができています。	学力差があり同じ学習問題だと厳しいと感じた。比べる、選ぶ学習問題は、問いの力が強いと感じた。	C		学習問題の設定を工夫することで、子どもたちの取組が変わることを教師が実感してきている。	B	②学習問題を子どもたちに投げかけた後の反応を見ながら、どんな問題が追究の意欲が高まったのかを研究していく。
		振り返りが充実する授業	「今日のゴール」「単元の核心」等をもとに、1時間や単元の終わりに、自分が大切だと感じたことを振り返ることができている。	対話は話すとなっている。やはり、対話は聴き合うことを基本にしたい。	B		小グループで活動する機会を増やしたことにより、聴き合うことができるようになってきている。	B	③学習問題に対する追究方法を提示するなど、追究意欲が向上する手立てを考えていく。
	健康づくりや体力づくりを意識した生活習慣	職員は、児童生徒が健康に気をつけて体力づくりを意識できるように努力している。	追究にはクロムブックはかなり有効であった。書くことが苦手な子もクロムだと取り組める。思考ツールを活用する場面を見出したい。	B	アンケートより、ICT機器を多くの学年・教科で調べることや意見の共有や単元のまとめに使うことができています。児童生徒が思考ツールを活用することが増えてきている。		A	④発達段階に応じた、振り返りの方法を考え、実践していく。	
育 活 動	体づくり	元気アップ運動へ積極的に取り組む子ども	学校の元気アップ運動を通して、体づくりや健康づくりを意識できるように工夫している。	振り返りの時間を確保できなかった。何を振り返るのか子どもたちと共有できていないと感じている。	C	振り返りの観点を示したことで、振り返りやすくなった。意識的に時間を確保してきたことで、授業での学びを意識することができた。	B		
		コミュニケーション力を高め、信頼し合える人間関係づくり	学級づくりや学校自治会活動、歌声づくりを通して信頼し合える人間関係が築かれている。	すこやかカードで、睡眠時間、朝食の有無等から生活習慣の実態を把握。またほけんだよりや発育測定時の保健指導により、基本的な生活習慣の意識付けをさせた。 支援学級の児童の為に「なしのき体育」の時間を作り、キャッチボールや水泳などを行い、思う存分体を動かすことができた。	B	①生活習慣の見直しについて、家庭での意識や取り組みが重要になってくる。SNSの利用時間(多い)→睡眠時間(少ない)→朝食が食べられない→朝から体を動かさない、といった悪循環につながる。家庭との連携と合わせ、親子で保健指導、食育指導、情報モラル講演会等の実施の機会を多く作っていく。 ②元気アップ運動での見学者に対し、見学でもできることを提案したり、何ならできのかを聞き、少しでも見学者を減らしていく。 ③児童生徒が「やらされている」のではなく、「やりたい」気持ちで取り組めるような、興味を持てる種目、やってみたい種目を考えていく。(児童生徒が考える元気アップ運動週間)	B	・寝不足が原因の体調不良で保健室を利用する児童生徒は減ってきているが、月曜日や長期休み明けは、体調管理が不十分だったり、集中できていなかったりする児童生徒が見られる。 ・児童生徒の意識としては、長時間SNSの利用はしない方がよいことはわかっているが、やめられないのが実態である。 ・元気アップでの見学者の対応について、活動はできなくても補助をするなど、座って見ているだけでなく同じ空間にいるようにした。 ・「児童生徒が考える元気アップ」で、今までは鬼ごっこの意見が多かったが、マラソン、リズムトレーニング、リレーなど持久力や走力、調整力を整える種目があがるようになった。	B
	命の重さを知り、権利を守る	学校は一人ひとりを大切に、いじめや差別のない、楽しく安心できる場所になっている。	朝の元気アップ運動では、サーキットやリズムトレーニング等、多様な動きを取り入れており、児童生徒も積極的に動こうという意識が高まっている。 固定化している見学者に対して、声掛けをしているものの、意識や変化はないと感じる。	B	①連学年のバランスも考えたい。 ②メンバーが替わることで変わる子もいる。途中でメンバーを替えたり、リーダーを替えるなどの工夫も考えられる。 ③リーダー同士の交流がほしい。「何のためにやるのか」などの話し合いを通して、自己責任感を育てたい。 ④活動をつくるのはリーダーだけではない。活動をつくるのはフォロワーもだという意識を育てたい。(学級指導で)	B	自治会活動や学校行事において、それぞれのブロックでリーダーとしての活躍の場を設けることができ、子どもたちによる活動の工夫が見られ、フォロワーも協力しようと努力する姿が見られた。特に本年度は7年生がミニミニグループのリーダーを務め、上級生の支援を受けながら活動する中で大きな成長が見られた 集団に馴染めない子どもに対して、個々に学習の場を確保し丁寧に対応してきた。集団の中での学習に苦しさがある子どもたちが、意欲をもって学習に取り組む姿が多くなった。子ども同士のトラブルも見られたが、その都度担任を中心に家庭と連絡を取り合って解決してきている。学校に來られない子どもに対しては、引き続き学校とのつながりを持てるよう丁寧に対応をしていく。	A	①リーダーとしての活躍の場を、これからもきちんととれるように工夫していく。フォロワーが活動をつくるという意識を、それぞれの活動や行事のたびに指導し高めていきたい。 ②アンケートの結果から、保護者は個の生き方を大切にする学校の姿勢を肯定的に受け止めている。引き続き、個への対応を細かく考えていきたい。また、一人一人の子どもの個性が生きる場づくりに努力し、子どもたち全員が生き生きと生活できる学校となるよう工夫していく。 ③子ども同士のトラブルは起きてしまうものではあるが、その都度当事者の話をしっかりと聞き、保護者との連携を深めて、丁寧に対応して人間関係の改善を図っていく。